

外来語の語形

—— 3 拍語の場合 ——

橋 本 和 佳

目次

- 1 はじめに
- 2 外来語の母音・子音について
- 3 3 拍の外来語（1168語）を中心に
 - 1）和語3拍語との比較
 - 2）典型的な語形
- 4 おわりに

1 はじめに——日本語の中の外来語——

外来語は、外国語から日本語にとり入れられたことばである。「外国語」と「外来語」とは、外来語研究の分野では、はっきりと区別されている。外来語は、外国語が日本語の単語として使われるようになったものを指す。したがって、発音やアクセントが日本語化したり、語形短縮や意味の変化が生じたりと、多くの点でもとの外国語と相違が生じるのである。ここでとりあげたいのは、発音の日本語化であり、語形の日本語化である。

近年、外来語が氾濫していると言われるが、現代日本語の異なり語数において、外来語の占める割合は大体10%程度で、延べ語数では3～5%程度である。しかし実際には、もっと外来語が使われているように感じられる。外来語はカタカナで書かれ、音に外国語の響きがある、という点で目立つのである。日本語化してもなお残る外国語の響きとは具体的にはどのような響きなのか。日本語の響きとはどう違うのか。以上のことを解明しようとするのが、この論文の目的である。

さて、作業方法は、【新潮現代国語辞典】^①から1拍から8拍までの外来語5160語をすべて抜き出し、パソコンに打ち込んで、音素分布を調べるというものである。前半では1～8拍の外来語全体についてのデータを中心に、後半では主に3拍の外来語1168語に

ついて詳しく考察し、和語3拍名詞と比較し、外来語が日本語らしい語形かどうかを調べた。また外来語らしさについても考察した。

ここで使う「外来語」には、略語・混種語・和製英語も含まれる。また、漢語は含まれない。分類、表記はすべて上記の辞書にしたがった。同じ語に2通りの見出し語がある場合は、両方の語を抜き出している。(例 ヴィーナス/ピーナス, アルミ/アルミニウムなど)

2 外来語の母音・子音について

英語が日本語化して、外来語になるときの変化の1つに、音節構造のちがいがから、原語の短小形がしばしば長大化する、ということが挙げられるだろう。その違いについて説明すると、日本語の拍構造はきわめて簡単で、単独母音、子音(半母音)+母音、特殊拍(促音、引き音節、撥音)から成り立っているが、英語などの音節構造はかなり複雑で、母音を中心として、その前と後ろにひとつ以上いくつの子音を添えることができる。したがって、例えば、英単語が外来語として定着する際には、特殊拍を除けば、母音を伴わない単独の子音にはすべて母音が添加され、子音+母音の形になるのが通例である。

例えば、text という語は、原語では1音節であるが、日本語では、teki(/u)suto(テキスト又はテキスト)と4拍になり、英語に比べると長い語形になる。

3拍の外来語が、原語では何音節語であったのか、英語を原語とする語(1168語中の891語)について調べてみたところ、3拍の外来語のうち、原語が1音節の語が67%、2音節の語が28%もあるのに比べ、原語も3音節の語は、わずか5%にも満たなかった。この結果からも、「原語の短小形の長大化」が外来語の日本語化の際にしばしば起こることがわかるだろう。

また、5つ以上ある欧米語の母音は、それに近い日本語の5つの母音のうちのどれかに代替される。母音添加の際、もっとも多く使われるのは、/u/である。これは/u/が音声学的に見て、奥舌閉母音で無声化されやすいということと関係があると思われる。つまり/u/が添加されても、母音が強く響かないように聞こえるため、/u/を添加すれば、日本語の音韻体系に合い、しかも原語に1番近い語形が得られるということになる。また/t/、/d/においては/u/を添加すると子音の発音が/ts/ /dz/に変わってしまうために/o/が添加されることが多い。^②

表1を見てみると、語尾、合計で/u/が最もよく現れる。日本語全体では、/e/と共に低頻度の/u/が外来語で1番多く使われているのは、上で述べた理由によると思わ

表1 外来語における音素頻度表

語数：5,153 (2-8拍語)

| | 総数・(%) | 語 頭 | 語 中 | 語 尾 |
|----------|----------------|-------|--------|-------|
| u | 4,745(12.24) | 941 | 1,875 | 1,929 |
| a | 4,206(10.85) | 1,724 | 2,086 | 396 |
| o | 3,311(8.54) | 965 | 1,469 | 877 |
| i | 3,216(8.30) | 731 | 2,224 | 396 |
| e | 2,087(5.38) | 815 | 1,150 | 122 |
| 母音合計 | 17,565(45.30) | 5,176 | 8,804 | 3,585 |
| R (引き音節) | 2,373(6.12) | | 1,538 | 835 |
| N (撥音) | 1,853(4.78) | | 1,124 | 729 |
| Q (促音) | 736(1.90) | | 736 | |
| 特殊音合計 | 4,962(12.80) | | 3,398 | 1,564 |
| j | 735(1.90) | 299 | 387 | 49 |
| w | 60(0.15) | 32 | 26 | 2 |
| 半母音合計 | 795(2.05) | 331 | 413 | 51 |
| r | 3,196(8.24) | 447 | 2,128 | 621 |
| t | 2,155(5.56) | 343 | 1,084 | 728 |
| s | 2,043(5.27) | 655 | 934 | 454 |
| k | 1,638(4.22) | 566 | 763 | 309 |
| m | 1,159(2.99) | 356 | 461 | 342 |
| p | 974(2.51) | 437 | 394 | 143 |
| b | 892(2.30) | 395 | 414 | 83 |
| d | 718(1.85) | 200 | 316 | 202 |
| n | 686(1.77) | 135 | 479 | 72 |
| z | 607(1.57) | 129 | 347 | 131 |
| g | 596(1.54) | 164 | 256 | 176 |
| h | 529(1.36) | 311 | 158 | 60 |
| ※ f | 229(0.59) | 138 | 81 | 10 |
| ※ v | 28(0.07) | 18 | 10 | 0 |
| 子音合計 | 15,450(39.85) | 4,294 | 7,825 | 3,331 |
| 総 計 | 38,772(100.00) | 9,801 | 20,440 | 8,531 |

※子音のf(ファ、フィ、フェ、フォ)とv(ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ)は、外来語にだけ現れる音素である。

れる。語頭では /a/ が1番多く、語中では、/i/ が1番多い。全体を通して少ないのは、日本語全体と同じく /e/ であった。

③ 母音の頻度を位置別に和語と比較してみると、語尾において著しい特徴が見られた。今回の調査は、3拍の外来語を対象にしたもので、名詞に限っていないが、3拍の和語に関する調査は3拍の名詞に限ったものしかないなので、便宜それを対照資料とした。外来成分は通例、名詞相当の資格で、日本語の中に入ると考えられているからでもある。

外来語の語尾では /u/ → /o/ → /a/ → /i/ → /e/ の順に多いのに対し、和語では /i/ → /e/ → /a/ → /o/ → /u/ の順に多かった。語尾においては、外来語で高頻度の /u/ /o/ が和語では低頻度であり、逆に外来語で低頻度の /i/ /e/ は和語では高頻度であるという対照的な結果が出た。

また、外来語では特殊拍（引き音節、撥音、促音）がかなり多く現れる（このことについては後で詳しく述べる）。

次に、外来語の子音について表1をもとにして、和語、英語、その他の欧米語の同様の調査結果とを比較してみよう。

まず、/r/ /t/ /s/ がよく使われることがわかるが、この3音素は和語、英語、その他の欧米語でも共通して高頻度である。それらに続く、共通の高頻度音素は /k/ /n/ /m/ /p/ /d/ である。/k/ は日本語では特に高頻度であるが、逆に /d/ は低頻度である。また、/p/ は外来語では高頻度であるが、和語では目立って低頻度である。

位置別に見ると、語中・語尾では外来語、和語、英語で、大きな違いは見られなかったが、語頭では特徴的な結果が出た。

外来語、英語の語頭では共通して /r/ /p/ /b/ が高頻度であるのに対し、和語では /h/ /m/ /t/ が高頻度であった。つまり、辞書をひいたときにラ行、パ行、バ行では、外来語の占める割合が多く、逆にハ行、マ行、タ行では少ないということになる。外来語、和語、英語に共通しているのは /k/ /s/ のみである。外来語の語頭においては原語の語形が残りやすいようで、日本語の音韻の特徴と共通している語だけを外来語として取り入れているわけではないと考えられる。

- 四 表2は、拍数別に、各位置において最も多く出現する音素を集めたものである。子音では、/r/ が15度、/s/ が7度登場し、母音では、/a/ と /u/ が各9度、/i/ が8度登場している。また、引き音節も6度登場している。位置別に見ると、子音では語頭の /r/ /k/ /s/、語中の /r/ がかなり大きな割合を占めている。また、語中・語尾に引き音節、撥音が目立つ。母音では語頭の /a/ が圧倒的に多く、/u/ も語尾を中心によく現れる。これらは「外来語の響き」を構成する重要な音素であると言える。

表2 位置別最頻出音素表

| | 1 拍目 | | 2 拍目 | | 3 拍目 | | 4 拍目 | | 5 拍目 | | 6 拍目 | | 7 拍目 | | 8 拍目 | |
|----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| | p1 | p2 | p3 | p4 | p5 | p6 | p7 | p8 | p9 | p10 | p11 | p12 | p13 | p14 | p15 | p16 |
| 2 拍語 (273語) | r | a | r | u | | | | | | | | | | | | |
| | 11.3 | 26.7 | 15.7 | 29.3 | | | | | | | | | | | | |
| 3 拍語 (1168) | r | a | R | | t | u | | | | | | | | | | |
| | 11.8 | 29.7 | 23.6 | | 17.0 | 38.1 | | | | | | | | | | |
| 4 拍語 (1602) | s | a | r | i | R | | R | | | | | | | | | |
| | 15.7 | 29.2 | 23.9 | 19.2 | 12.2 | | 19.2 | | | | | | | | | |
| 5 拍語 (1085) | k | a | r | u | r | i | R | | R | | | | | | | |
| | 12.9 | 31.2 | 26.7 | 17.0 | 14.8 | 27.9 | 15.2 | | 18.1 | | | | | | | |
| 6 拍語 (658) | s | a | r | i | r | a | r | i | s | i/u | t | u | | | | |
| | 11.7 | 32.5 | 24.1 | 16.4 | 12.4 | 19.7 | 21.5 | 28.7 | 14.7 | 17.4 | 17.1 | 39.8 | | | | |
| 7 拍語 (256) | s | a | r | i | r | u | r | u | R | | s | a | N | | | |
| | 12.8 | 30.0 | 20.7 | 15.2 | 14.0 | 20.3 | 17.9 | 19.5 | 15.6 | | 13.6 | 18.3 | 17.1 | | | |
| 8 拍語 (111) | k | a | N | | s | u | r | o | r | u/e | r | i | s | i | N | |
| | 11.7 | 25.2 | 27.0 | | 16.2 | 27.0 | 19.8 | 22.5 | 21.6 | 19.8 | 18.0 | 18.9 | 20.7 | 19.8 | 23.4 | |
| | | | | | | | | | | | R | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 18.0 | | | | | |

p: 音素 R: 引き音節 (ー) N: 撥音 (ン) 数字は各位置における音素の出現率 (%)

3 3 拍の外来語 (1168語) を中心に

3. 1) 和語 3 拍語との比較

外来語は、外国語のままではなく、日本語の音韻体系に従って日本語化し、入ってくる。日本語化するという事は、語形も日本語化して、日本語らしくなるのであろうか。それとも、やはり外来語の語形は、日本語らしくないのだろうか。

外来語の、語形から見た日本語らしさを、8つの項目について、和語3拍名詞と比べながら見てみよう。下の8項目は、玉村文郎の『語彙の研究と教育(上)』からの引用である。 五

日本語らしい語形と日本語らしくない語形

- (1) 直音と拗音
- (2) 語頭の清音と濁音・半濁音
- (3) 短音と長音(引き音節の有無)

- (4) 語頭ラ行音の有無
- (5) 語中・語尾のハ行音の有無
- (6) エ列音
- (7) 促音の有無
- (8) 撥音の有無

以下、順にこれについて見ていこう。

(I) 直音と拗音

和語3拍名詞3233語のうち、拗音を含む語は、わずか22語であった(0.6%)のに対して、外来語3拍語では11.6%もある。和語に比べると、かなり多いといえる。また、拍数が増えるにしたがって、拗音を含む語の割合も増えている。

拗音がどの位置に現れているのかを表3で見ると、全体的に語頭と、語尾から2拍目に多く現れ、語尾にはあまり現れないことがわかる。外来語の多音節語では、語末に、一ジョン、一ジョンが来ることが多いため、拗音が語尾から2拍目に多く現れるのであろう。

また、和語3拍名詞では、拗音は、1度しか現れない。しかし、3拍の外来語では、キャッシュ、リュージュの2語で各2度現れる。ちなみに、4拍以上の語のうち25語の外来語に、拗音が各2度現れる。

このように、外来語には、拗音を含む語が多く、1語のうちに2度現れることもある。

表3 拗音の分布表

| | 1拍目 | 2拍目 | 3拍目 | 4拍目 | 5拍目 | 6拍目 | 7拍目 | 8拍目 | 語数(%) |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------|
| 2拍語 | 21 | 1 | | | | | | | 22(8.05) |
| 3拍語 | 106 | 16 | 16 | | | | | | 136(11.64) |
| 4拍語 | 94 | 27 | 67 | 17 | | | | | 201(12.54) |
| 5拍語 | 44 | 11 | 35 | 46 | 9 | | | | 141(12.99) |
| 6拍語 | 19 | 16 | 17 | 16 | 55 | 6 | | | 121(18.38) |
| 7拍語 | 9 | 4 | 6 | 3 | 10 | 30 | 0 | | 56(21.87) |
| 8拍語 | 4 | 0 | 2 | 1 | 2 | 4 | 19 | 0 | 31(27.92) |
| 合計 | 297 | 75 | 143 | 83 | 76 | 40 | 19 | 0 | 733(14.22) |

(II) 語頭の清音と濁音・半濁音

和語3拍名詞では、語中・語尾に比べて、語頭の濁音・半濁音(/b/, /d/, /g/, /z/, /p/)が著しく少ない。しかし3拍の外来語では、/g/ /b/ /p/は、語頭に最もよく現れ、/z/ /d/も語頭、語中、語尾で、それほど差はなかった。濁音・半濁音としてまと

表4 濁音・半濁音の分布表

| | 1拍目 | 2拍目 | 3拍目 | 4拍目 | 5拍目 | 6拍目 | 7拍目 | 8拍目 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2拍語 | 96 | 42 | | | | | | |
| 3拍語 | 336 | 130 | 214 | | | | | |
| 4拍語 | 417 | 183 | 291 | 185 | | | | |
| 5拍語 | 235 | 113 | 229 | 130 | 156 | | | |
| 6拍語 | 169 | 75 | 128 | 84 | 97 | 99 | | |
| 7拍語 | 54 | 19 | 46 | 41 | 31 | 36 | 27 | |
| 8拍語 | 18 | 3 | 26 | 15 | 22 | 11 | 16 | 12 |

めて見ても、語頭に1番多い。

表4を見ると、8拍語以外では、濁音・半濁音は、語頭に最も多く現れることがわかる。子音別に見ると、/g/ /z/ /d/ には、バラつきがあり、語頭が多いとも少ないとも言えないが、/b/ /p/ はすべての拍の語において、語頭に最も多く現れる。

以上のことから、外来語では、濁音・半濁音が、語頭に最も多く現れると言えるだろう。

(Ⅳ) 短音と長音（引き音節の有無）、促音の有無、撥音の有無

和語3拍名詞には、引き音節（一で表記される）をもつ語はない。しかし、母音の連続によって、音声上引き音節になることがあるため、和語にも引き音節はあると言える。（「ばあや」、「いいこ」など）

このように音声的に見た場合、和語3拍名詞で、引き音節を持つ語は、全体の2.4%であるが、3拍の外来語では、1168語中404語（34.58%）が引き音節をもつ。3拍語以外の語でも、拍数が増えるにしたがって引き音節を含む語の割合も増え、6拍以上の語になると、半数をこえる。また、4拍以上の語では、アーミー、イージーなどのように引き音節が1語中に2度現れることがある（198語）。

促音、撥音は古代日本語にはなかったため、日本語らしさを弱める働きがある。

和語3拍名詞では、47語（1.4%）が2拍目に促音をもつだけである。しかし3拍の外来語では、実に142語（12.1%）において、促音が2拍目に現れる。表5より、促音は語尾から2拍目に比較的多く現れることがわかる。また、促音が1語中に2度現れる語は、コックピット、リュックサックなど6語ある。

また、撥音は、和語3拍名詞では、語中35語、語尾7語、計42語（1.2%）にしか現れない。それに対して3拍の外来語では、語中116語、語尾102語、計218語（18.6%）に現れる。そして拍数が増えるにしたがって、撥音を含む語の割合も増え、7拍語・8拍

表5 特殊拍の分布表

| | 2拍目 | 3拍目 | 4拍目 | 5拍目 | 6拍目 | 7拍目 | 8拍目 | 語数(%) |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------|
| 2拍語 | 38 | | | | | | | 38(13.91) |
| | 27 | | | | | | | 27(9.89) |
| 3拍語 | 276 | 128 | | | | | | 404(34.58) |
| | 142 | | | | | | | 142(12.15) |
| | 116 | 102 | | | | | | 218(18.66) |
| 4拍語 | 238 | 197 | 308 | | | | | 658(41.07) |
| | 83 | 141 | | | | | | 224(13.98) |
| | 159 | 100 | 285 | | | | | 518(32.33) |
| 5拍語 | 124 | 61 | 165 | 197 | | | | 517(47.64) |
| | 35 | 29 | 103 | | | | | 167(15.39) |
| | 141 | 37 | 126 | 141 | | | | 405(37.32) |
| 6拍語 | 79 | 33 | 60 | 89 | 105 | | | 339(51.51) |
| | 30 | 13 | 22 | 65 | | | | 125(18.99) |
| | 88 | 44 | 32 | 79 | 104 | | | 314(47.72) |
| 7拍語 | 35 | 20 | 16 | 40 | 30 | 42 | | 148(57.81) |
| | 8 | 6 | 7 | 8 | 22 | | | 51(19.92) |
| | 49 | 17 | 26 | 14 | 26 | 44 | | 140(54.68) |
| 8拍語 | 14 | 4 | 12 | 6 | 20 | 19 | 17 | 71(63.96) |
| | 2 | 2 | 1 | 1 | 7 | 9 | | 21(18.91) |
| | 30 | 6 | 14 | 7 | 5 | 8 | 26 | 67(60.36) |

上段：引き音節 中段：促音 下段：撥音

語では、半数を越えるのである。

表5より、撥音は2拍目と語尾に多く現れることがわかる。また、4拍以上の語では、「エンジン」、「アンサンブル」などのように撥音が1語中に2度現れることがある(158語)。さらに「アンデパンダン」、「コンスタンタン」、「コンモンセンス」のように1語中に3度も現れる語もある。

(Ⅳ) 語頭ラ行音の有無，語中・語尾のハ行音の有無

古代日本語は、語頭にラ行音をもっていなかったと考えられている。そのため、語頭にラ行子音をもつ語は、日本語らしくない。和語3拍名詞では、「るつば」、「るまた」の2語しかない。

表6から、/r/は、語中において最も安定し、語頭、語尾には比較的少ないことがわ

表6 /r/ と /h/ の分布表

| | 1 拍目 | 2 拍目 | 3 拍目 | 4 拍目 | 5 拍目 | 6 拍目 | 7 拍目 | 8 拍目 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2 拍語 | 31 | 43 | | | | | | |
| | 16 | 10 | | | | | | |
| 3 拍語 | 138 | 197 | 150 | | | | | |
| | 69 | 17 | 19 | | | | | |
| 4 拍語 | 132 | 384 | 183 | 248 | | | | |
| | 90 | 7 | 29 | 10 | | | | |
| 5 拍語 | 88 | 290 | 161 | 155 | 107 | | | |
| | 70 | 14 | 19 | 7 | 11 | | | |
| 6 拍語 | 41 | 159 | 82 | 142 | 69 | 44 | | |
| | 41 | 8 | 11 | 5 | 5 | 7 | | |
| 7 拍語 | 12 | 53 | 36 | 46 | 36 | 26 | 20 | |
| | 16 | 2 | 7 | 5 | 6 | 3 | 3 | |
| 8 拍語 | 5 | 26 | 13 | 22 | 24 | 20 | 4 | 9 |
| | 9 | 3 | 0 | 2 | 1 | 2 | 5 | 0 |

上段 : /r/ 下段 : /h/

かる。しかし、他の子音と比べると、語頭の /r/ は、/s/、/k/ について多く現れる。表 1, 2 を見ても、/r/ が、外来語の子音のなかで大きな位置を占めることがわかるだろう。

語中・語尾のハ行音の拍は、平安時代中期ごろから変化しはじめ、ワイウエオになったため、和語で、語中・語尾にハ行の拍をもっている語は珍しい。和語 3 拍名詞でも、語頭が 392 語に対して、語中は 51 語、語尾は 36 語と少ない。

表 6 から、外来語も和語と同じように、/h/ は語頭において最も安定し、語中・語尾には少ないということがわかる。この点については、日本語らしいと言えるだろう。ただし、外来語における /h/ の頻度はかなり低い。

(V) エ列音

日本語の母音音素の中で、使われる率のもっとも低いものが /e/ である。和語名詞の語頭にくる /e/ はとくに低率である。しかし、3 拍の外来語では、語頭ではそれほど低率ではないが、語中・語尾においては低率である。

以上、(I)~(V)の項目について見てきた。まとめてみると、明らかに外来語が日本語らしくないと言える項目は、引き音節、語頭の濁音・半濁音の多用と、古代日本語にはな

かった拗音・促音・撥音の多用とであって、これらが「外来語らしさ」を形成していると考えられる。

明確に日本語らしいか、日本語らしくないか言い切れない項目は、語頭の /r/ の有無である。/r/ は、語頭・語尾に比較的少なく、語中に多く分布している。しかし、語頭の /r/ は、他の子音に比べると少ないわけではないため、どちらも言い切れないのである。

外来語が日本語らしいと言える項目も2つあった。語中・語尾の /h/ の有無と母音の /e/ についてである。どちらも和語ほどではないが、出現率が低かった。

3. 2) 典型的な語形

和語2拍名詞の典型的な語形は、/kari/ であった。(雁・狩り・借り・仮り・刈りなど)

また、和語3拍名詞の典型的な語形は、/kakari/ であった。(係り・掛かり・懸かり・架かりなど)

では、外来語ではどうなるのだろうか。表7から語頭・語中・語尾の各位置を総合すると、

| 〈語頭〉 | 〈語中〉 | 〈語尾〉 |
|-------------|--------------------|-------------|
| /k/ /o/ | /k/ /o/ /R/ | /t/ /o/ |
| 10.6 → 19.3 | 10.6 ← 19.3 → 23.6 | 17.1 ← 18.9 |
| 29.8 | 16.3 31.4 | 56.1 |
| | /o/ /R/ /t/ | |
| | 19.3 ← 23.6 → 17.1 | |
| | 25.7 18.1 | |
| | /R/ /t/ /o/ | |
| | 23.6 ← 17.1 → 18.9 | |
| | 25.0 62.0 | |

○ の結合率がもっとも高い。音素の下の数字は、その位置における音素の占める割合(%)である。また、2つの音素のあいだにある数字は、2つの音素の結合率(%)を示す。その場合、→の起点の方が分母となる。

これらを組み合わせると、3拍の外来語の典型的な語形 /koRto/ ができる。(庭、法廷などの)コート:court、(上着の)コート:coat は、よく使われる語である。その他にも、海岸:côte (フランス語)のコートがある。

表7 3拍の外来語の音節構造と音素分布

語数: 1168

| 後項 前項 および 特殊音 | a(578) | i(438) | u(715) | e(315) | o(534) | ja(76) | ju(53) | je(11) | jo(20) | TOTAL |
|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| ※ ϕ (277) | 34 | 13 | 5 | 28 | 15 | 7 | 1 | | 3 | 106 |
| | 10 | 66 | 15 | 8 | 8 | 4 | 0 | | 0 | 111 |
| | 33 | 7 | 2 | 3 | 8 | 6 | 1 | | 0 | 60 |
| k (255) | 35 | 13 | 14 | 7 | 37 | 16 | 2 | | 0 | 124 |
| | 3 | 6 | 12 | 2 | 5 | 0 | 1 | | 0 | 29 |
| | 4 | 14 | 73 | 5 | 6 | 0 | 0 | | 0 | 102 |
| g (87) | 13 | 5 | 11 | 5 | 5 | 3 | 0 | | 1 | 43 |
| | 6 | 3 | 4 | 1 | 6 | 0 | 1 | | 0 | 21 |
| | 2 | 0 | 16 | 2 | 3 | 0 | 0 | | 0 | 23 |
| s (280) | 30 | 21 | 25 | 17 | 12 | 13 | 5 | 4 | 7 | 134 |
| | 0 | 7 | 25 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 36 |
| | 2 | 4 | 93 | 1 | 0 | 0 | 9 | 0 | 1 | 110 |
| z (108) | 4 | 5 | 3 | 4 | 2 | 13 | 7 | 2 | 2 | 42 |
| | 7 | 6 | 4 | 0 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 | 24 |
| | 4 | 13 | 17 | 4 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 42 |
| t (336) | 24 | 16 | 2 | 15 | 13 | 10 | 2 | 4 | 4 | 90 |
| | 16 | 4 | 0 | 6 | 19 | 0 | 1 | 0 | 0 | 46 |
| | 10 | 39 | 18 | 7 | 125 | 0 | 0 | 0 | 1 | 200 |
| d (129) | 16 | 4 | | 13 | 11 | | 0 | | | 44 |
| | 7 | 5 | | 6 | 5 | | 1 | | | 24 |
| | 5 | 0 | | 2 | 53 | | 1 | | | 61 |
| n (90) | 9 | 6 | 2 | 5 | 11 | 0 | 1 | | 0 | 34 |
| | 6 | 15 | 2 | 5 | 5 | 0 | 1 | | 0 | 34 |
| | 8 | 1 | 1 | 6 | 6 | 0 | 0 | | 0 | 22 |
| h (105) | 19 | 7 | 18 | 8 | 15 | 0 | 2 | | 0 | 69 |
| | 0 | 1 | 13 | 2 | 1 | 0 | 0 | | 0 | 17 |
| | 0 | 0 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 19 |
| b (174) | 30 | 15 | 11 | 17 | 26 | 0 | 1 | | 0 | 100 |
| | 6 | 13 | 9 | 7 | 5 | 0 | 3 | | 0 | 43 |
| | 5 | 3 | 15 | 3 | 5 | 0 | 0 | | 0 | 31 |

外来語の語形

一一

| | | | | | | | | | | |
|------------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|------|
| p (182) | 35 | 17 | 14 | 12 | 27 | 0 | 2 | | 0 | 107 |
| | 3 | 6 | 4 | 4 | 1 | 0 | 0 | | 0 | 18 |
| | 6 | 0 | 45 | 3 | 3 | 0 | 0 | | 0 | 57 |
| m (168) | 33 | 16 | 3 | 24 | 10 | 0 | 3 | | 0 | 89 |
| | 3 | 5 | 2 | 5 | 5 | 0 | 1 | | 0 | 21 |
| | 14 | 2 | 40 | 2 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 58 |
| r (485) | 34 | 29 | 16 | 30 | 27 | 0 | 2 | | 0 | 138 |
| | 47 | 38 | 56 | 27 | 28 | 0 | 1 | | 0 | 197 |
| | 22 | 5 | 106 | 5 | 12 | 0 | 0 | | 0 | 150 |
| f (43) | 13 | 5 | | 6 | 10 | | 0 | | | 34 |
| | 2 | 2 | | 1 | 1 | | 0 | | | 6 |
| | 1 | 0 | | 2 | 0 | | 0 | | | 3 |
| v (4) | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | | | | | 3 |
| | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | | | | | 1 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | 0 |
| w (17) | 11 | | | | | | | | | 11 |
| | 6 | | | | | | | | | 6 |
| | 0 | | | | | | | | | 0 |
| Q (142) | | | | | | | | | | 142 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| N (218) | | | | | | | | | | 116 |
| | | | | | | | | | | 102 |
| | | | | | | | | | | |
| R (404) | | | | | | | | | | 276 |
| | | | | | | | | | | 128 |
| | | | | | | | | | | |
| TOTAL | 340 | 173 | 124 | 191 | 223 | 62 | 28 | 10 | 17 | 1168 |
| | 122 | 177 | 146 | 79 | 90 | 8 | 11 | 0 | 1 | 1168 |
| | 116 | 88 | 445 | 45 | 221 | 6 | 14 | 1 | 2 | 1168 |

上段：1 拍目 (p1-p2) 中段：2 拍目 (p3-p4) 下段：3 拍目 (p5-p6)

※φは子音音素ゼロなので、いわゆる母音音節となる

語頭を結合率の高い順に置き換えてみると、カート、パート、ラート、アートという語ができ、ラート以外は、いずれも聞き慣れた語である。また、語尾を同じように置き換えてみると、コール、コース、コーク、コードという語ができ、これらも聞き慣れた語である。

4 おわりに

語形から見た外来語を中心にさまざまな角度から「日本語らしさ」と「外来語らしさ」について考察してきた。外来語らしい語形は、多くの点で、日本語らしいとは言えないという結果が出ている一方で、なおいくつかの考察すべき点もあった。

また、典型的な3拍の外来語の語形は、「コート」であった。

今後、他の拍数や、原語別、品詞別の典型的な語形についても調べてみる必要があるだろう。さらに新しい辞書や、外来語辞典などでもっと広く語を採集して調べる必要があるだろう。もっと深く調査を進めるために音韻論以外にも音声学や英語学における分類や分析もしていきたい。また、この作業の延長として、当然漢語についても同様の分析調査を進める必要のあることを感じる。

注

- ① 山田俊雄 築島裕 白藤幸 奥田勲 編『新潮現代国語辞典』（77000語収録 1985年発行 新潮社）
- ② 大曾美恵子『日本語教育 74号』p. 39「英単語の音形の日本語化」
- ③ 入江さやか「現代日本語における和語3拍名詞について—出現頻度別に見た音素分布の分析と考察—」（『同志社国文学 43号』1996年発行）以下も和語の3拍名詞について、同様入江論文による。
- ④ 下記の文献による。

染田利信『音韻論の諸問題』人文書院（1987年発行）「出現頻度から見た子音および母音の特性」

市河三喜編『英語学辞典』研究社（1940年第一刷）

中村仁美「音韻論から見た現代日本語における2音節和語名詞について」（同志社大学1983年度卒業論文）

【参考文献】

- 玉村文郎『語彙の研究と教育（上）（下）』国立国語研究所、（1984.9.20, 1985.8.12）
 金田一春彦・林大・柴田武編集責任『日本語百科大事典』大修館書店、（1988.5.1）
 林 大監修『図説日本語』角川書店、（1982.2.10）
 大野晋、柴田武 編『岩波講座 日本語5 音韻』岩波書店、（1977.8.26）
 服部四郎『音声学』岩波書店、（1984.6.28）
 上野景福『英語語彙の研究』研究社、（1980.10.30）

- 石綿敏雄『日本語のなかの外国語』岩波新書, (1985.3.20)
 石綿敏雄『外来語と英語の谷間』秋山書店, (1983.9.10)
 石野博史『現代外来語考』大修館書店, (1983.12.1)
 宇井英俊『日英両語における外来語・借用語』ほおずき書籍, (1985.3.15)
 城生伯太郎, 松崎寛『日本語「らしさ」の言語学』講談社, (1995.1.9)
 矢崎潤九郎『日本の外来語』岩波新書, (1964.3.21)
 柴田武『日本語はおもしろい』岩波新書 (1995.1.20)
 飛田良文『英米外来語の世界』南雲堂, (1981.10)
 横井忠夫『外来語と外国語』現代ジャーナリズム出版会, (1973.8.31)
 『日本語教育74号』日本語教育学会, (1991.7)
 『「ことば」シリーズ4 外来語』文化庁, (1976.7.20)
 『ことば読本「外来語」』河出書房新社, (1993.2.12)